平成8('96)年11月1日
第３号
(題字は名誉会長佐々木省三氏)

早稲田大学
武蔵野稲門会報

発行　武蔵野稲門会
東京都武蔵野市吉祥寺本町1-20-1
永谷シティプラザ806
電話　0422－21－9961

ワセダは今

早稲田大学総長
奥島孝康

武蔵野稲門会のみなさま、こんにちは。平素から、本大学の諸活動にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、前号では、私ども理事会が大学改革のメインコンセプトとして掲げた「グローカルユニバーシティの実現」について、その趣旨を紹介させていただきました。そこで、今号では、サブコンセプトを中心に、現段階の具体的な取り組みについて、その概要をご報告させていただきます。

私どもは、きたる二千七年の創立百二十五周年に「グローカルユニバーシティ」を実現すべく、早稲田の歴史と伝統をふまえ、かつ21世紀を展望して、次の三つのコンセプトの基に大学改革を推進しております。すなわち、「アジア太平洋」「メディアネットワーク」「生涯学習」でありますが、これらの三分野は、いずれも本学百十四年の歴史が培ってきた伝統をもつ分野であります。

「アジア太平洋」につきましては、この春開設準備室を開設し、一九九七年に「アジア太平洋研究センター(仮称)」を設置し、一九九八年にはアジアからの留学生を多数迎える「大学院アジア太平洋研究科」を新設すべく準備を進めております。「メディアネットワーク」につきましては、現在、二万五千人強の学生がインターネットのアドレスを持っておりますが、この二～三年内に全ての学生がどこからでもアクセスできるキャンパスの情報環境を実現すべく、整備事業を強力に推進しております。また、郵政省からの補助金等により、国際情報通信プロジェクトも進めており、近い将来、アジア全域の大学生を対象とするメディアネットワーク専攻の大学院の設置も構想しております。「生涯学習」ということでは、現在エクステンションセンターが実施している「オープンカレッジ」を拡充するほか、専門学校の芸術(建築を含む)分野への再編、さらには、通信衛星を利用した生涯学習事業の展開についても検討を進め、ワセダの大衆的基盤の再構築をはかる計画を練っているところであります。

また、こうした改革の支援体制の一環として、大学の対外的窓口である従来のＵＲセンターを総長室(秘書課・校友課・募金課)に改組するとともに、同様な趣旨で総務部広報課を広報室に格上げし、校友のみなさまとのコミュニケーションの活性化と経営の透明性にも努めてまいりたいと考えております。さらに、学外機関との連携を強化すべく、教務部の外局として学外連携推進室を設置し、主に政府機関からの学外資金の導入にも精力的に取り組んでおります。おかげさまで、今年は日本学術振興会の「未来開拓学術研究推進事業研究プロジェクト」や文部省の「ハイテクリサーチセンター整備事業」などに大型の補助金を獲得することができました。研究活動の一層の活性化を図る上でも、今後とも精力的に取り組んでいきたいと考えております。

なお、現在、新しい博物館の設置などについても検討を進めておりますが、紙幅の都合上、次回にまわさせていただきます。

以上、現在取り組んでいる大学改革の一端を述べさせていただきましたが、みなさまの母校を「地域に、社会に、世界に開かれた大学」としてさらに発展させるため、全力を傾注する決意でありますので、校友のみなさまにおかれましては、今後とも母校の活動を温かくお見守りくださるとともに、ご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、みなさまがますますご健勝でご活躍されますことをお祈り申し上げ、大学の近況報告とさせていただきます。

武蔵野稲門会同好会だより

第二回 ゴルフコンペを開催!

武蔵野稲門会同好会の行事として、第二回ゴルフコンペが、6月6日(木)に、「霞ケ浦出島ゴルフクラブ」にて行なわれました。

連続出場の轟常彌(30法・西久保)、小美濃隆(31法・南町)、滝本尚男(38法・境南町)、杉崎完夫(27商・南町)、渡辺吉章(49理・本町)、佐藤孝一(56商・荻窪)の6名に加え、今回初出場の井上俊雄(24政経・西久保)、井上義則(35政経・西久保)、清沢清恵(29教育・練馬立野町)の3名を加えた9名の参加で行なわれました。

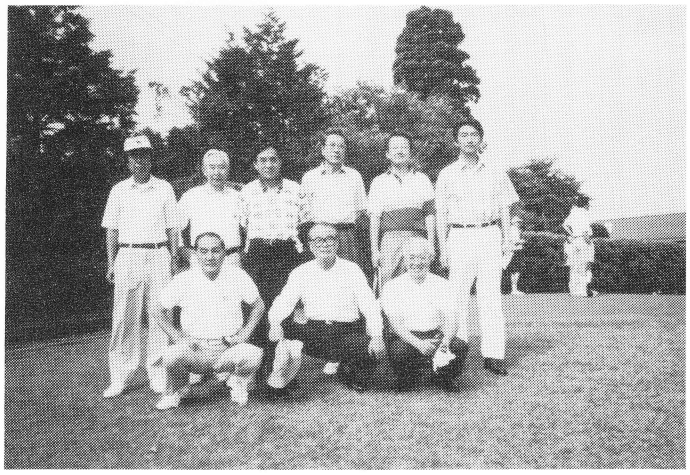
毎月ゴルフを楽しんでいる方、昨年の稲門会ゴルフコンペ以来初めてクラブを握るという方、現在「絶好調」という方、最近どうも調子が出ないとぼやく方、と多彩な顔ぶれとなりました。しかし、全員が心待ちにしていたというこのコンペ。同窓ならではの和気あいあいの楽しい雰囲気でいっぱいでした。

吉祥寺に帰ってからパーティー開始。会場には、残念ながら今回参加できなかった、前回の参加メンバーも加わり、ゴルフ談議やらそれぞれの学生時代の話しやら、酒を酌み交わしての楽しい懇親のひとときとなりました。

さて、肝心の第二回ゴルフコンペの結果は、輝く優勝の栄誉は、轟常彌さんが見事獲得されました。あとは「ヒミツ」ということで、第二回ゴルフコンペの報告とさせていただきます。

第三回ゴルフコンペには、より多数の会員の方々の参加により、増々会員同士の交流、懇親を計ることができればと思っております。是非ご参加下さい。

〔佐藤孝一(昭56商)記〕



カラオケ同好会の発足に御協力を!

武蔵野稲門会同好会として、ゴルフ同好会が定期的に行なわれ、囲碁同好会も発足の準備が進められているとのことです。

さて、多くの根強いファンを持つカラオケの同好会も、一つの稲門の交流・懇親の場として発足させたいものだと思っております。

現在、運営方法、場所の設定などについて、思案しております。是非ともカラオケ好きの稲門の方、御意見・御要望はもとより、発足に向けての御協力をお願い致します。

〔轟 常彌(昭30・法)記〕

ゴルフコンペに初参加して

井上義則(昭35・政経)

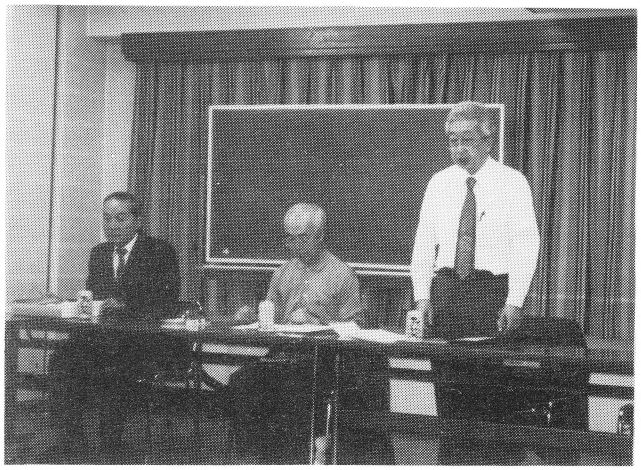
昨年の総会の時お誘いをうけ、今回、大石さんから御案内をいただき、参加出来なくなった大石さんが、わざわざ自宅まで連絡に来てくれたり、これ又、参加出来なくなった中村さんが私達を当日朝早く西久保から吉祥寺まで運んでくれたりのご配慮でした。

ゴルフ場は広々としたホール、トリッキーなホールと面白く、小美濃さんと杉崎さんとご一緒のお陰で、崖上からのチップインなどのラッキーも出て待望の百を切る事が出来ました。

吉祥寺カヤシマでのパーティは、ゴルフに参加出来なかった方も三人程加わって、まあ本当に「わきあいあい」。渡辺さん大石さん佐藤さん、若い幹事の面倒みのよさは抜群。「わけへだてなく」精神の凝縮でしょうか。初参加なのに、もう何回も出させていただいているような、くつろいだ雰囲気にひたった(恐縮した)一日でした。

ありがとうございました。

幹事会にエールを送って下さい



本会は十一条文から成る「武蔵野稲門会々則」によって運営されていますが、その中心は会長以下幹事で構成される幹事会です。会則第二条に「本会は会員相互の親睦を厚くし、武蔵野市および早稲田大学校友会との連繋を密にし、地域社会ならびに大学の発展に協力することをもって目的とする」とあります。

幹事会は年間数回の会合を持っておりますが、秋の総会準備のためには月一回のペースで開かれ、最近では九月三日㈫、十月一日㈫、十一月六日㈬夜に吉祥寺駅近くの本町コミセンで行いました。写真は会合風景ですが、前田会長が総会の運営方針などにつき説明中です。

本会では会員の皆さまの親睦をより一層深めるため、企画を立て実行にうつしてまいりますので、今後ともご支援をお願いいたします。

武蔵野稲門会総会

平成7年度総会は11月16日午後6時30分吉祥寺東急インにて来賓11名会員71名で行われた。総会は中村幹事の司会で開会、前田会長の挨拶、来賓の紹介、議事へと進み会務報告、会計報告、会計監査報告が滞りなく行われ閉会。

奥島総長より講演をいただき、松本校友会常任幹事より祝辞があり総会は終了、引きつづき佐藤幹事の司会で懇親会が開かれ、会員である土屋武蔵野市長より祝辞があり佐々木名誉会長の発声で乾杯し、スタートした。途中同好会活動のアンケートをとるなどこれからの武蔵野稲門会の活気を感じさせる会合となった。

最後に大石幹事のリードで校歌斉唱、平野相談役の音頭で万才三唱し閉会した。

〈出席者〉

〈来賓〉（大学）奥島孝康総長、西原春夫ヨーロッパセンター（ボン）館長（校友会）松本琢司常任幹事（近隣稲門会）保谷・中井弘会長、菅原範人前会長、立川・鴛海量良副会長、練馬・荻野隆義会長、小平・提箸喜雄常任幹事、三鷹・三室隆英会長、田無・小池助男副会長（オブザーバー）盛本学園・盛本敏夫理事長

〈会員〉安藤爲朝、秋本光雄、秋本澄子、秋山陽、有田六郎、井上俊雄、井上義則、池田政行、市川重雄、今市誠一郎、上宮成之、江口恵賀、小美濃隆、大石仁、大澤勇、大沢寛三、沖島祥介、勝倉啓仁、上篠節夫、川口晃玉、菅伸子、吉良公宏、清沢清恵、金護経、銀川忠男、小坂智信、小林和子、興梠理、高坂孝、佐川素子、佐々木省三、佐々木政雄、佐藤孝一、佐渡雅雄、重松和雄、白井澄子、杉崎完夫、鈴木武、田中久雄、田中康弘、田山明生、滝本尚男、辻本謙市、円谷俊男、土屋正忠、東出茂敬、轟常彌、中村誠、西田信和、西宮勲、根岸俊吉、平田俊男、平野正紀、平松鉄郎、福原弘、富留宮照男、堀裕一、前田信昭、町田顕、増子和利、松林光正、三宅康、水野学、山口連、山崎俊郎、山下倫一、山中健嗣、山本富士雄、渡辺吉章、庄司駿一、山口操

〔沖島祥介(昭51教)記〕

茶湯と私

菅　伸子（昭45・文）

私の夏は毎年大文字焼が終り、かすかに涼風の気配漂う京都での茶湯の稽古で終る。趣味の一つである茶湯とのつきあいもかれこれ四十年になろうとしている。茶湯の歴史は、集大成をした千利休より以前、現在の形に創り出した村田珠光より数えて五百年。この間多少の盛衰はあるが、絶えることなく続いてきたのは何故であろうか。

私にとっては、感性を磨く楽しさ、そして儒教や禅と結びついた精神性がその魅力と思われる。誰にでも分り易く、人間の五感に働きかける。視覚(道具・書・絵・花等々)聴覚(銅鑼の音、釜の湯のたぎる音)味覚(茶・菓子・料理・酒)嗅覚(香)触覚(茶碗の手ざわり・口ざわり)、この五感を鋭敏にして使いながら、亭主と客が次元を同じくして語り合う「場」をお互いに創り合う。その空間と時間は中々趣深いものである。この主客の交流に加えて常日頃、俗世間に生きている私には、禅の考え方が、中々難しいことではあるが、人や物に対する執着を捨てることの大きさ、一種の覚悟を、生きる上での心構えとして与えてくれている。

我国独自の生活文化でありかつ社交的遊芸でもある茶湯の本質を一言で言い得ているのは次の沢庵禅師の言葉であろう。「山川自然の景色を一室に移して、四季の変化を感じ、釜のたぎる音に松風を聴いては世上の念慮をとかし、杓に澗水をくみ注いでは心中の塵埃をすすぎ、主客ともに相敬し相和する。」茶湯とは一生のおつきあいと思っている。

役員名簿(幹事会)

(平成八年十一月一日現在)

		(卒年)	(住所)
名誉会長	佐々木省三	昭11政経	吉・東町
相談役	平野　正紀	昭12政経	関　前
	田中　雄一	昭19政経	中　町
	井上　俊雄	昭24政経	西久保
顧問	重松　和雄	昭17理工	西久保
	有田　六郎	昭16商	境南町
	樋口　弘其	昭17政経	境南町
	＊	＊	
会長	前田　信昭	昭25理工	吉・東町
副会長	辻本　謙市	昭32商	吉・北町
	杉崎　完夫	昭27商	吉・南町
	山本富士雄	昭34理工	吉・本町
代表幹事	小美濃　隆	昭31法	吉・南町
幹事(会計監査)	轟　常彌	昭30法	西久保
	根岸　俊吉	昭28理工	八幡町
幹事(会計)	秋本　澄子	昭31文	境南町
幹事(庶務)	福原　弘	昭44法	三鷹市
幹事	江口　恵賀	昭37商	吉・南町
	大石　仁	昭51政経	吉・北町
	沖島　祥介	昭51教育	中　町
	菅　伸子	昭45文	吉・本町
	古賀あつ子	昭39教育	中　町
	佐藤　孝一	昭56商	杉並区
	滝本　尚男	昭38法	境南町
	中村　誠	昭52商	八幡町
	山下　倫一	昭46商	西久保
	渡辺　吉章	昭49理工	吉・本町

編集後記

今年も総会を前にして会報第三号を発行することが出来ました。商業誌・機関誌とも第三号までは出るが、後は苦戦というのが通り相場のようですが、奥島総長はじめ原稿をお寄せいただき感謝いたしております。

編集は原稿集めに苦労しますが、終わってみると素晴しいと思います。

当会報は一・二号とも少々堅いのではとの評をいただき、三号も踏襲した感があり反省いたしております。通り相場を打破すべく努力いたしますので、総会ご出席の皆さまをはじめ、ご欠席で会費をお振り込みいただいている会員の皆さまのご意見をぜひお聞かせ下さい。

なお編集委員は、大石、沖島、菅、佐藤、滝本の幹事諸兄姉です。

(辻本)

ご意見募集

第四号以降の編集のため皆さまのお知恵をお寄せ下さい。

FAX
〇四二(二一)九九七六